

# 高橋 宏典さんと私

(明るく、落ち着いた人)

グループ B, 平田 愛依 (ひらた めい)

## 1、第一印象

私は、散歩の前の授業を体調不良で休んでしまっていたので、散歩のときが正真正銘の初対面だった。教室で待ち合わせていて、私がグループの中で最初に教室に着いたのでどんな人とグループが一緒なのかと多少不安になりながらみんなを待っていると、高橋君は他の班員と一緒に来た。黒髪で黒メガネをかけていたのでとてもまじめそうな人だと思った。私が B グループだとわかると笑顔で挨拶をしてくれた。私は前回休んだこともあって、打ち解けられるかかなり不安だった。ボーリング場へは自転車で移動した。移動には結構時間がかかって、この長い移動の時間を沈黙で行くのはつらいなと思っていた時に、高橋君が話しかけてくれた。「名前聞いていい？」と私の名前を聞いてくれて、私が他の班員の名前を高橋君に聞くと、「本人たちに聞いた方がいいよ。」と言ってくれた。そのおかげで他の班員とも打ち解けることができたと思う。高橋君の話し方はゆっくりで、移動しながらでも聞き取りやすく初対面でも落ち着いて話せるような雰囲気だった。

ボーリングの最中は他の班員に冗談でからかわれたりしたときに笑顔でそんなに激しくないつつこみをしていて優しさが伝わってきた。ある班員がボーリングの途中でジュースを床にこぼしてしまった時も、落ち着いていてそばにあった私の靴が濡れていないか心配してくれたり、雑巾を取りに行ってくれたりして本当に優しい人だなと思った。

ボーリング帰りに一緒にみんなでお昼を食べたときは、他の班員の話をよく聞いていて聞き上手な感じがした。また、話を聞くときはちゃんと目を見て話を聞いていてあいづちも丁寧な感じだった。

話好きな私とは聞き上手である高橋君はだいぶ違うと思う。散歩の中でもかなり気配りができるようなので、視野が狭い私とは違ってちゃんと周りを見ることが出来る人だと思う。

## 2、話題

軟式テニス部について

この話題を選んだ理由は、大学生活においてかなり重要になってくる部活について聞くことによって高橋さんがどんな大学生活を送りたいのか、どういう環境が好きなのかなどいろいろな側面が見えてくるだろうと思ったからである。

## 3、話し合いの結果

3. 1 6月18日の話し合い

週に何回やっているのかと聞くと週に4回やっているようで、大変だなあと思っ

たが、高橋さんは笑顔で言っていて大変とは思っていないようだった。自主練もやっているようでかなり一生懸命やっていると思った。その一生懸命の度合いは空きコマのときにはすぐ練習に行くというぐらいのかなりなものであった。前衛を担当しているようで、身長を活かせるし、決める時の快感がいいと言っていた。私も軟式ではないが、硬式テニスをやっていたので高橋さんの気持ちがよくわかった。なぜ、軟式テニス部に入ろうとしたのか聞いてみたところ中高と続けていたからと答えてくれた。それではなんで中学の時に軟式テニス部に入部しようと思ったのか聞いてみた。最初は全く考えていなかったが、バスケット部は経験者しか入れる感じじゃなかったし、野球部は坊主になるのが嫌で、陸上部は人数が少ない、卓球部には兄がいて嫌だった、吹奏楽部は運動部に入りたかったという理由で消去法的に軟式テニス部にしてみたかった。いくら消去法といってもなんだかんだで中高大と軟式テニスをやることになるわけで、一つのことをずっと続けることができる持続力がある人なんだと思った。

### 3. 2 6月25日の話し合い

前は練習について主に聞いたので今回は部活においての人間関係について聞いてみた。誰か尊敬する、またはすごいと思う仲間はいるか聞いてみたところ、かなり悩みながら、同学年の子達がかかなり練習をがんばっているのがすごいと思うと語ってくれた。私はてっきり強い先輩の話などが来ると思っていたので同学年をすごいと思っているのは意外だった。高橋君がなぜ悩んでいたのかというと、先輩はもちろん尊敬できるような気はするのだが、具体的に誰とすぐ思いつく人がいなかったからだと真剣に答えてくれた。部活でそんなときが一番楽しいか聞いてみたところ、一年生とやっているときが一番楽しいと言っていた。高橋君は経験者だし、上手な先輩たちと一緒にやる方が楽しいんじゃないの？と聞いてみたら、いくら大学に入って先輩と仲がいいといってもやはり気を使うから一年生の方が楽しいと言っていた。高橋君はよく笑う明るい子だが、気をちゃんと使うタイプなんだとわかった。私は自分のことを気を使う方だと思っていたが、高橋君と話していると自分が気を使っているぐらいのことは当たり前のように思えた。

### 3. 3 7月9日の話し合い

7月2日に私が書いたレポートを班員に見てもらったところ、テギョンも高橋君が落ち着いているということに強く共感してくれた。その時に高橋君はちょっと照れくさそうに笑いながらそれは今までもよく言われるかも。と言っていた。高橋君と話し合いをしたうえでの印象があまり他の人と違ってはいないようで少しほっとしてしまった。9日の話し合いでは、部活に入ってからしばらくたったが、今も最初の情熱を持ったまま練習しているかと聞いてみると、最近は東医体前にもかかわらず練習量が減ってきたと言っていた。それでも高橋君は全然焦っているような感じはしなくて、おおらかな人だなと思った。なんで練習に参加しなくなってきたかという勉強が忙しくなってきたからだという。勉強のときのためにお菓子を大量買いしたと言っていて一生懸命ながらも息抜きをしっかりとするのが高橋君なんだと思った。

#### 4、まとめ

高橋君にとって軟式テニス部は生活の大部分を占めているものであるようだった。部活の時間を心から楽しんでいるようで、軟式テニス部でなかったら高橋君の生活は大きく変わり、きっと今の私の高橋君に対する印象までもが違ってくるようなことになっていたと思う。

高橋君は自主練をするなど一生懸命に部活をしていて、仲間の頑張りを認めているところなどから、心から軟式テニス楽しんでいると思った。中高大と軟式テニスをやっていてうまいにも関わらず先輩よりも1年生と一緒にやっているときの方が楽しいと言っていたので、高橋君は競技としてテニスをはたかぶるのではなくいかに楽しい時間を過ごすかを重視しているんだと思った。

高橋君と話してみても、中学一年のときに部活に入るとき、私は友達がみんな入るからという簡単な理由だったのに対して、高橋君のように冷静にじっくりと考えて決める人がいることに驚いた。高橋君は私がインタビューしたことにはすべて笑顔で答えてくれて、そういうところからも常に楽しむことができそうな人だと思った。そんな高橋君を見ていて、見習いたいと思った。これからは最初のうちは意識的にでも笑って、そのうち自然に笑顔になれるようになって、毎日を今よりもっと楽しめるようになりたいと思った。

#### 5、クラスについての感想

##### 5, 1 クラスで学んだこと

この授業を通して、コミュニケーションというのは国による伝統を紹介しあったりといったようなことではなく、一対一でしっかりと話して相手を理解しようとするのだということを知ったと思う。印象が本人の思っている自分と一致するかわからないのが大事なのではなくて、相手を知ろうとしながら会話をしていくことがコミュニケーションにおいて最も大切なことであるんだと思った。これは多文化においてもいえることである。

##### 5, 2 クラスについて

難しかったと思うことは実際に話して思ったことをレポートに書いてみんなにうまく伝えるという作業が最も難しく感じた。やかかったのは話し合いの時間がたっぷりあったことと、レポートを徐々書いていくような感じだったのであまり負担に感じることなくレポートを書くことができたと思う。改善すべきだと思うのは、一対一ばかりではなくグループで話し合う時間なども作ってその中での印象を考えるといったようなことをするともっといいクラスになるのではないかと思った。